

科目名	心理学 Psychology	担当教員 (研究室番号)	小池 敦 (510)			教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修 年次	1年次 前期	科目 区分	教養・基礎科目		選択 区分	選択	単位数 (時間)	2(30)	授業 形態	講義	科目等 履修生	可
											オープンクラス	可
科目 目的	心理学は心と行動の諸側面を研究対象としている学問です。この授業では、心理学研究の成果に基づいて、①個体としての人間の心的機能、②心と身体の関係、さらに③他者との関わりの側面という3つの視点から、人間への理解を深めます。その上で、④看護を中心とする医療・福祉の分野にとって求められる人間理解と心理的側面への援助方法について学びます。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
	関連する DP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
到達 目標	1. 心を理解するためのさまざまなアプローチの方法について知る。 2. 機能としての心の働きについて知る。 3. 心と脳や身体との関係について理解する。 4. 他者との関わりの中で生じる心理について理解する。 5. さまざまな心理的援助方法について知る。 6. 看護職者として患者の心を理解するための関わりについて考えられるようになる。											
成績評価方法 (基準)		期末試験 (100%)										
再試験の有無と 基準等		科目合否結果で不合格となった者のうち期末試験で不合格となった者に対しては再試験を実施する。再試験は期末試験と同様に行う。										
教科書		行場次朗・大淵憲一共著「ライブラリ 心理学の杜1 心理学概論」サイエンス社										
参考書等		必要に応じて適宜紹介する。										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待		「こころ」は最も身近でありながら、不可思議なものです。日々の生活の中で、まずはじっくりと自分自身を眺め、次に友人・家族など周囲の人々を見渡し、社会との繋がりを考えることが、心理学の学習にとって大切です。さまざまな人間観や価値観に触れながら、自らの視野を広げていけるように、積極的に関心をもって授業に臨んで下さい。										
備考												
回	学習項目				学習内容					主担当 教員	授業 方法	
1回	イントロダクション				看護学と心理学の関係をテーマとして、看護を学ぶ者が心理学を学ぶことの意義について考える。					小池	講義	
2回	心理学の歴史と研究方法				過去から今日に至るまで、心理学研究がどのようになされてきたか学ぶ。さらに、代表的な心理学研究方法としての実験法、質問紙法、観察法、面接法について理解する。					小池	講義	
3回	感覚・知覚				外的世界である環境から、どのように情報を受け取り、認識するのか、感覚器官の性質、知覚の特性について学ぶ。					小池	講義	
4回	注意と認知				主体としての人が外的刺激を効率的に選択する働きとしての注意の過程、さらに選択された情報を適切な行動につなげる認知の過程について学ぶ。					小池	講義	
5回	本能行動と学習				行動に焦点を当て、本能行動、初期経験、条件づけ、社会的学習など、行動が生じる原理について学ぶ。					小池	講義	
6回	記憶				経験を蓄える働きとして、記憶過程、記憶の種類、記憶障害などについて学ぶ。					小池	講義	
7回	言語・思考				心を形作る基本的な側面としての言語、思考、知能について理解を深めるため、単語認知、文章理解、問題解決、推論などについて学ぶ。					小池	講義	
8回	知能とそのアセスメント				心理学における知能がどのように捉えられてきたか理解を深めるとともに、知能の評価方法について学ぶ。					小池	講義	
9回	感情と動機づけ				感情の種類、情動生起のメカニズム、動機の種類、コンフリクトなど、心の反応ともいえる情動と動機づけについて学ぶ。					小池	講義	
10回	パーソナリティとそのアセスメント				類型論、特性論などのパーソナリティ理論、パーソナリティ形成に関わる要因、人格格障害などについて学ぶとともに、パーソナリティの評価方法について理解を深める。					小池	講義	
11回	社会心理				個人として、他者との関わりの基本となる対人認知、対人魅力、態度などについて学ぶとともに、集団における心理として、社会的促進と抑制、同調行動、集団心理などについて理解を深める。					小池	講義	
12回	脳と心の関係				失語症、失行症、失認症など脳の損傷によって生じる障害から、脳と心の関係について理解を深める。					小池	講義	
13回	ストレス反応と対処行動				ストレスの種類、ストレスに対する生体の反応、対処行動など、ストレス事態における生体の反応について学ぶ。					小池	講義	
14回	心理アセスメントと心理援助方法				心理的援助のための心理アセスメントと来談者中心療法、認知行動療法など、さまざまな心理援助方法について理論的背景と具体的な方法を学ぶ。					小池	講義	

回	学習項目	学習内容	主担当 教 員	授業 方法
15回	患者と医療者の心理	病気の種類とそれに対応した心理、患者と関わる医療者の心理について学ぶ。	小池	講義

学 習 課 題
第3回課題（事後）：ICU症候群について調べまとめておく。 第5回課題（事後）：日常生活の中でみられる学習について具体例を挙げ、学習理論で説明できるようにしておく。 第10回課題（事前）：パーソナリティ障害について調べておく。 第12回課題（事後）：高次脳機能障害に対する看護ケアの方法についてまとめる。 第13回課題（事後）：看護職者のバーンアウトについてまとめておく。 第14回課題（事後）：看護職が活用している心理援助法についてまとめておく。

実務経験を活かした教育の取組